

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	藤田 真頼
主な担当科目	合奏 I ①
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	大学への出校時間を早めて授業、レッスンへの準備を十分できるように心がける。室内楽、合奏、音楽指導論特殊講義、音楽活動研究等の授業は楽譜や資料等の準備も行う。演奏会実習では、特に学生達の要望に応え追加のレッスンも考えた。個人レッスンでは個々の学生達に対応できるように、様々な方法を当てはめ、学生達の学修意欲を促した。基礎ゼミに於いては弦管打楽器学内組織でのプレゼンテーションの準備、作成、演奏、台本を担当した。
2022年の教育に関する自己評価	学生達とのコミュニケーションを心がけていたが、こちらの体調不良、学生の体調不良も目立ち、やむなく休講などもあり、補講が大変になってしまった。また、休学を求める学生も多く、親との面談なども行ったが難しい部分もあった。自分自身の体調管理、学生への更なる対応の方法の改善を考えさせられた。尚、海外からの招聘教授による特別講座の準備、通訳、等の対応は積極的に行い、学生達の意欲、技術向上に貢献した。
2022年のFD活動に関する自己評価	9月のFD合同研修会では学内組織においてファシリテーターを担当し、テーマであるコロナ禍を経た、学習成果を向上させる為の教育方法・教育効果の検証についてに沿って、専門の違う各先生方からのご意見を引き出し、皆様との会話と議事の進行を円滑に行った。また、弦管打楽器学内組織のFD研修会では議題「本年度の新規授業と運用による前期の反省と、後期への課題と取り組み」の選定、司会を担当し、其々の先生方からのご意見を伺った。FD研修会に於いて各先生方との親睦、ご意見の交換ができ、次年度への運用に生かしていきたいと感じた。
授業改善のために取り入れた研修内容	室内楽、個人レッスンでのパーテーション、生徒との距離感、換気について常に注意を払った。合奏の授業では、対面演奏、密を避ける為に動画の提出などの方法も試した。

科目名-クラス名

合奏Ⅰ①

F I

曜日時限

金 4時限

金 5時限

担当教員

藤田 真頼

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1~	通年	4		50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

フルートに関する知識や技術学を、自分の演奏を正しい方向へ導いていく能力を総合的に養います。

水曜日（甲藤）前期：フルートの構造に由来する、複雑で不確実な発音原理を理解し、あらゆるアンサンブルに求められる高いコントロール能力を身につける重要性を認識する。

後期：音楽史を通して、各時代、国、様式の作曲家がフルートに求めるイメージ、役割、スキルを理解する。

金曜日（藤田）：フルートの基礎練習は様々なエクセサイズがあり多様な基礎能力を学ぶ事が出来る。基礎練習はスポーツの筋肉トレーニングと同様に辛いものであるが、基礎体力が向上すれば楽曲を演奏する能力の幅が広がる。それぞれの教則本を有効に使う勉強法で、多方面のレベルアップにつながる。これは元パリオペラ座フルーティストのR. ギオー氏がパリ10区音楽院で行っていたレッスンスタイルで当時の学生たちにも人気の授業であった。なお1年次のうちにピッコロの基礎技術を修得する必要があるため、いずれか1コマを丸田悠太特別講師によるピッコロ特別講座とする。日程については講師と調整し決定する。その他、フルートの歴史を学ぶための講座、現代奏法について、トラヴェルソ体験の為に外部講師を招く予定。

学修成果

水曜：フルート音楽の総合的な理解を深め、幅広い知識を身につけることができる。特に二重奏、三重奏に取り組み、お互いの演奏を聴くことで、音程、音量、あらゆるニュアンス(アタック、レガート、アクセント)などの合奏能力に必要なスキルを学んで行く。音楽史における重要な作曲家の作品に具体的に取り組む事で、フルートの役割や表現能力を理解する。

金曜：グループレッスンすることにより互いの刺激を増長する。客観的に自身のレベルを認識し、多角的に理解を深める。最終的には基礎練習の大切さを個人で理解し、自主的に自分に合った基礎練習を普段から心がけ演奏の向上を追求できるように考える。

授業展開と内容

第1回 水曜：ガイダンス、自己紹介、作曲家がフルートに求めるスキル、イメージについて。合奏におけるフルートの役割  
金曜：様々な教則本、練習曲の歴史と説明 ①ソノリテ ②タファネルとゴーベール ③音階と分散和音 他

第2回 水曜：基礎能力について 将来的なティーチングスキルも踏まえて アルテス教則本第3巻：11番(音程、ヴィブラート)  
金曜：ソノリテについてとロングトーン (ソソフィレとは)

第3回 水曜：基礎能力について 将来的なティーチングスキルも踏まえて アルテス教則本第3巻：22番(テンポ、ダブルタンギング)  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 1.2 パリ音楽院の名教授 (Ph.ゴーベール)

第4回 水曜：基礎能力について(イントネーション) モイーズ：24のメロディアス・スタディより  
金曜：低音の柔軟性と右小指の練習方法 ベームカプリス1 パリ音楽院の名教授 (P.タファネル)

第5回 水曜：基礎能力について(フレージング) モイーズ：24のメロディアス・スタディより  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 3.4 トーンディヴェロブメント パリ音楽院の名教授 (F.ドヴィエンヌ)

第6回 水曜：ピアノとのアンサンブル 平均律に対してのイントネーションの感じ方について  
金曜：音の跳躍とスラー ベームカプリス2 パリ音楽院の名教授 (H.アルテス)

第7回 水曜：ピアノとのアンサンブル アインザッツとバランスの感じ方について  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 5.6A トーンディヴェロブメント パリ音楽院の名教授 (M.モイーズ)

第8回 水曜：純正和音を作る合奏 ゆっくりのトリオ、カルテットを取り上げる  
金曜：音程と音量のコントロール ベームカプリス3 パリ音楽院の名教授 (A.マリオン)

第9回 水曜：純正和音を作る合奏 アルトフルート、バスフルートを含む作品を取り上げる  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 6B.7 トーンディヴェロブメント

第10回 水曜：ロマン派へのアプローチ クーラウ：二重奏op.80-2 音量と表現  
金曜：ビブラートとプレスコントロールについて ベームカプリス4

第11回 水曜：ロマン派へのアプローチ クーラウ：二重奏op.80-2 フレージング  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 8 トーンディヴェロブメント

第12回 水曜：ロマン派へのアプローチ クーラウ：二重奏op.10-2 イントネーションとバランス  
金曜：装飾音、トリルとターン ベームカプリス5

第13回 水曜：バロック奏法、通奏低音とインプロヴィゼーション ペリオド奏者の演奏  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 9 トーンディヴェロブメント

第14回 水曜：トラヴェルソを用いた合奏の体験  
金曜：ダブルタンギングとトリプルタンギング ベームカプリス6

第15回 水曜：W.F.パッハorクーラウ二重奏曲 成果発表  
金曜：タファネルとゴーベールの練習方法 EJ 10 トーンディヴェロブメント、成果発表

第16回	水曜：宗教曲について バッハ：マタイ受難曲 金曜：ソノリテの演奏解釈における音の統制 ベームカプリス6
第17回	水曜：古典の重要性について 形式について～ハイドンの交響曲 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 11 トーンディヴェロブメント
第18回	水曜：古典派の重要性について 奏法について～モーツァルトのピアノ曲 金曜：アーティキュレーションとリズム ベームカプリス7
第19回	水曜：ドイツ・ロマン派におけるフルートの役割り ベートーヴェンとブラームスの交響曲 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 12 トーンディヴェロブメント
第20回	水曜：フランスの作曲家について サン＝サーンス：動物の謝肉祭 金曜：A.ライヒャ7つの日課練習の練習方法 ベームカプリス7
第21回	水曜：フランスの作曲家について ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 13 トーンディヴェロブメント
第22回	水曜：フランスの作曲家について ラヴェル：ダフニスとクロエ 背景を担うフルート 金曜：M.モイーズ日課大練習の練習方法 ベームカプリス8
第23回	水曜：フランスの作曲家について ラヴェル：ダフニスとクロエ ソロを担うフルート 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 14 トーンディヴェロブメント
第24回	水曜：国民楽派、東欧の作曲家について ドヴォルザーク、スメタナ、バルトーク 金曜：M.モイーズ480の日課練習について ベームカプリス9
第25回	水曜：ロシアの作曲家と作品について プロコフィエフ：古典交響曲、ピーターと狼 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 15 トーンディヴェロブメント
第26回	水曜：オペラにおけるフルートの役割り グルック、ビゼー、ヴェルディ、プッチーニ 金曜：Ph.ベルノルドのアンブシュアのテクニックについて ベームカプリス10
第27回	水曜：現代奏法について 現代音楽奏者を講師として招聘予定 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 16 トーンディヴェロブメント
第28回	水曜：グループ分けし、学修のポイントになる部分は、適宜、メンバーを入れ替えながら研究する為の準備日 金曜：アルテス教則本について ベームカプリス11
第29回	水曜：ベートーヴェン：三重奏曲(ドン・ジョヴァンニの主題による)、チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ、或いはドヴォルザーク：スラヴ舞曲 他 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 17 トーンディヴェロブメント
第30回	水曜：成果発表 金曜：やっておきたい練習曲 ①ケーラー ②アンデルセン ③フェルステナウ 他、成果発表

### 履修上の注意

水曜日に1コマ、金曜日に2コマ開講されているので、履修登録時には注意が必要。遅刻欠席は授業全体の迷惑になるので厳しく考えておくこと。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

事前に課された課題には各自努力して準備しておくこと。十分な日頃の準備を欠かさずに行う事。

### 教科書・参考書

金曜日の授業ではソノリテ、タファネルとゴーパール、ベームカプリスは各人で用意する事。その他の教材はライブラリアンで各授業で用意する。

科目名-クラス名

合奏 I ①

F I

曜日時限

金 4時限

金 5時限

担当教員

藤田 真頼

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1~	通年	4		50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

フルートに関する知識や技術学をび、自分の演奏を正しい方向へ導いていく能力を総合的に養います。

水曜日（甲藤）前期：フルートの構造に由来する、複雑で不確実な発音原理を理解し、あらゆるアンサンブルに求められる高いコントロール能力を身につける重要性を認識する。

後期：音楽史を通して、各時代、国、様式の作曲家がフルートに求めるイメージ、役割、スキルを理解する。

金曜日（藤田）：フルートの基礎練習は様々なエクセサイズがあり多様な基礎能力を学ぶ事が出来る。基礎練習はスポーツの筋肉トレーニングと同様に辛いものである

学修成果

水曜：フルート音楽の総合的な理解を深め、幅広い知識を身につけることができる。特に二重奏、三重奏に取り組み、お互いの演奏を聴くことで、音程、音量、あらゆるニュアンス(アタック、レガート、アクセント)などの合奏能力に必要なスキルを学んで行く。音楽史における重要な作曲家の作品に具体的に取り組み事で、フルートの役割りや表現能力を理解する。

金曜：グループレッスンすることにより互いの刺激を増長する。客観的に自身のレベルを認識し、多角的に理解を深める。最終的には基礎練習の大切さを個人で理解し、自主的に自分に合った

授業展開と内容

第1回 水曜：ガイダンス、自己紹介、作曲家がフルートに求めるスキル、イメージについて。合奏におけるフルートの役割  
金曜：様々な教則本、練習曲の歴史と説明 ①ソノリテ ②タファネルとゴーパール ③音階と分散和音 他

第2回 水曜：基礎能力について 将来的なティーチングスキルも踏まえて アルテス教則本第3巻：11番(音程、ヴィブラート)  
金曜：ソノリテについてとロングトーン（ソソフィレとは）

第3回 水曜：基礎能力について 将来的なティーチングスキルも踏まえて アルテス教則本第3巻：22番(テンポ、ダブルタンギング)  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 1.2 バリ音楽院の名教授（Ph.ゴーパール）

第4回 水曜：基礎能力について(イントネーション) モイーズ：24のメロディアス・スタディより  
金曜：低音の柔軟性と右小指の練習方法 ベームカプリス1 バリ音楽院の名教授（P.タファネル）

第5回 水曜：基礎能力について(フレージング) モイーズ：24のメロディアス・スタディより  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 3.4 トーンディヴェロブメント バリ音楽院の名教授（F.ドヴィエンヌ）

第6回 水曜：ピアノとのアンサンブル 平均律に対してのイントネーションの感じ方について  
金曜：音の跳躍とスラー ベームカプリス2 バリ音楽院の名教授（H.アルテス）

第7回 水曜：ピアノとのアンサンブル アインザッツとバランスの感じ方について  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 5.6A トーンディヴェロブメント バリ音楽院の名教授（M.モイーズ）

第8回 水曜：純正和音を作る合奏 ゆっくりのトリオ、カルテットを取り上げる  
金曜：音程と音量のコントロール ベームカプリス3 バリ音楽院の名教授（A.マリオン）

第9回 水曜：純正和音を作る合奏 アルトフルート、バスフルートをを含む作品を取り上げる  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 6B.7 トーンディヴェロブメント

第10回 水曜：ロマン派へのアプローチ クーラウ：二重奏op.80-2 音量と表現  
金曜：ビブラートとプレスコントロールについて ベームカプリス4

第11回 水曜：ロマン派へのアプローチ クーラウ：二重奏op.80-2 フレージング  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 8 トーンディヴェロブメント

第12回 水曜：ロマン派へのアプローチ クーラウ：二重奏op.10-2 イントネーションとバランス  
金曜：装飾音、トリルとターン ベームカプリス5

第13回 水曜：バロック奏法、通奏低音とインプロヴィゼーション ビリオド奏者の演奏  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 9 トーンディヴェロブメント

第14回 水曜：トラヴェルソを用いた合奏の体験  
金曜：ダブルタンギングとトリプルタンギング ベームカプリス6

第15回 水曜：W.F.バッハorクーラウ二重奏曲 成果発表  
金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 10 トーンディヴェロブメント、成果発表

第16回 水曜：宗教曲について バッハ：マタイ受難曲  
金曜：ソノリテの演奏解釈における音の統制 ベームカプリス6

第17回 水曜：古典の重要性について 形式について～ハイドンの交響曲

	金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 11 トーンディヴェロブメント
第18回	水曜：古典派の重要性について 奏法について～モーツァルトのピアノ曲 金曜：アーティキュレーションとリズム ベームカプリス7
第19回	水曜：ドイツ・ロマン派におけるフルートの役割リ ベートーヴェンとブラームスの交響曲 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 12 トーンディヴェロブメント
第20回	水曜：フランスの作曲家について サン＝サーンス：動物の謝肉祭 金曜：A.ライヒャ7つの日課練習の練習方法 ベームカプリス7
第21回	水曜：フランスの作曲家について ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 13 トーンディヴェロブメント
第22回	水曜：フランスの作曲家について ラヴェル：ダフニスとクロエ 背景を担うフルート 金曜：M.モイーズ日課大練習の練習方法 ベームカプリス8
第23回	水曜：フランスの作曲家について ラヴェル：ダフニスとクロエ ソロを担うフルート 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 14 トーンディヴェロブメント
第24回	水曜：国民楽派、東欧の作曲家について ドヴォルザーク、スメタナ、バルトーク 金曜：M.モイーズ480の日課練習について ベームカプリス9
第25回	水曜：ロシアの作曲家と作品について プロコフィエフ：古典交響曲、ピーターと狼 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 15 トーンディヴェロブメント
第26回	水曜：オペラにおけるフルートの役割リ グルック、ビゼー、ヴェルディ、プッチーニ 金曜：Ph.ベルノルドのアンブシュアのテクニックについて ベームカプリス10
第27回	水曜：現代奏法について 現代音楽奏者を講師として招聘予定 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 16 トーンディヴェロブメント
第28回	水曜：グループ分けし、学修のポイントになる部分は、適宜、メンバーを入れ替えながら研究する為の準備日 金曜：アルテス教則本について ベームカプリス11
第29回	水曜：ベートーヴェン：三重奏曲(ドン・ジョヴァンニの主題による)、チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ、或いはドヴォルザーク：スラヴ舞曲 他 金曜：タファネルとゴーパールの練習方法 EJ 17 トーンディヴェロブメント
第30回	水曜：成果発表 金曜：やっておきたい練習曲 ①ケーラー ②アンデルセン ③フェルステナウ 他、成果発表

### 履修上の注意

水曜日に1コマ、金曜日に2コマ開講されているので、履修登録時には注意が必要。遅刻欠席は授業全体の迷惑になるので厳しく考えておくこと。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

事前に課された課題には各自努力して準備しておくこと。十分な日頃の準備を欠かさずに行う事。

### 教科書・参考書

金曜日の授業ではソノリテ、タファネルとゴーパール、ベームカプリスは各人で用意する事。その他の教材はライブラリアンで各授業で用意する。

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2722 教員名：藤田 真頼

### 1) 評価結果に対する所見

室内楽に関しては殆どの学生が、ある程度の満足をしている。器楽（主科実技）にたいしても同様。大学院の音楽指導論特殊講義に関しては、やや『あまり思わない』との回答が目立つが、記述がないので、どの授業なのか自分が担当したものなのか不明。

### 2) 要望への対応・改善方策

毎授業、新たな発見があるように努めていきたい。

### 3) 今後の課題

音楽指導論特殊講義については、学生のアンケート評価も参考にすが、担当の主任教員が参席して、他の先生方の講義を聞いて、評価なりご意見なりを頂きたい。

以 上